

苦しみの癒し
および

Shilo

シーロ

苦しみの癒し

および

内観

苦しみの癒し

内観

©Silo

編集者：マリオ・ガセル・ロハス (Mario Gazel Rojas)

ISBN: 978-9930-529-83-6

デジタル印刷および編集：

EdiNexo E.I.R.L

コスタリカ、サン・ホセ

翻訳：**SIGNEWORDS**

第2版、2016年11月

目次

はじめに

苦しみの癒し

内観

- I. 瞑想
- II. 理解しようとする意欲
- III. 無意味
- IV. 依存
- V. 予測的意味
- VI. 睡眠と覚醒 力の存在
- VII. 力の制御
- VIII. エネルギーの出現
- IX. 意味の証拠
- X. 発光中心
- XI. 発見
- XII. 原則
- XIII. 内なる道への導き
- XIV. 平和の体験と力の通過
- XV. 力の投影
- XVI. 力の消失と抑圧
- XVII. 力の作用と反作用
- XVIII. 内的状態
- XIX. 内的現実

伝言、シーロの見解

筆者について

第2版はじめに

ラテンアメリカ出身の思想家マリオ・ルイス・ロドリゲス・コボス（シーロ、1938年1月6日～2010年9月16日）の作品である説教『苦しみの癒し（La Curación del Sufrimiento）』および書籍『内観（La Mirada Interna）』の単巻版は、書籍『シーロの伝言（El Mensaje de Silo）』を説教『苦しみの癒し』および書籍『内観』の背景としてシーロ自身が説明したものに着想を得たものです。

『苦しみの癒し』は、人文主義新コレクションに掲載された書籍『地球の人間化』から抜粋されたものです。

エドゥアルド・モンヘ（Eduardo Monge）

苦しみの癒し

プエンテ・デ・バカス、
メンドサ、アルゼンチン
1969年5月4日

説教

知恵を伝達しようとする人の話を聞きに来たのなら、道を間違えています。真の知恵は、本や説教で伝達するものではなく、真の知恵は、心の底に真の愛があるのと同様に、自身の良心の底にあるからです。

誹謗者や偽善者に後押しされて、聞いた話を後で論争として役立たせる目的で、この人物の話を聞きに来たのなら、道を間違えています。この人物は、あなたに頼み事をするためでもなく、あなたを利用するためにここにいるわけではありません。あなたを必要としているわけではないからです。

宇宙を支配する法律を知らず、歴史の法則を知らず、人々を支配する関係を知らない人の話に耳を傾けるのです。この人物は、あなたの良心を都会や野心的な病から遠く離れたところに導きます。都会では、毎日が死に向かう切り詰められた熱望になり、愛が憎しみになり、許しが復讐になります。裕福な人々と貧しい人々の都会は、人々に溢

苦しみの癒し

れる場所であり、苦しみと悲しみに覆われています。

身体に痛みを感じるときに苦しみます。飢えに身体を制御されるときに苦しみます。しかし、身体の即時の痛み、身体の飢えだけに苦しむではありません。また、身体疾患の影響により苦しみます。

苦しみを 2 つに区別するべきです。病気に起因する苦しみがあります（そして、その苦しみは、科学の進歩により後退させることができ、同様に、飢えは、正義の支配により後退させることができます）。身体疾患に依存するのではなく、それから派生する他の種の苦しみがあります。妨害している場合、見ることができない場合、または聞くことができない場合の苦しみです。しかし、この苦しみが身体または身体疾患から派生していても、その苦しみは心に由来するのです。

科学の進歩によっても、正義の支配によっても後退させることのできない苦しみもあります。このような苦しみは、厳密に心から派生しているものであり、信仰、生きる喜び、愛により後退させることができます。この苦しみは常に、自分自身の良心にある暴力に基づいていることを理解しなければなりません。今自分が保有するもの、既に失ったもの、手に入れることを切望するものを失うことを恐れるため苦しむのです。所有していないため、あるいは一般的に恐怖を感じるため苦しむのです。この人物の強大な敵は、病気への恐怖、

苦しみの癒し

貧困への恐怖、死への恐怖、孤独への恐怖です。これらすべては、自身の心自体の苦しみです。これらすべては、内部の暴力が現れたもの、すなわち心にある暴力です。その暴力は常に欲望から来ていることに注意してください。暴力的になるほど、その欲望は俗悪になります。

一昔前に起こった話を提示したいと思います。

長旅をしなければならない旅人がいました。家畜を荷車につなぎ、遠い目的地に向かって出発しました。旅は一定の期間内に終わらせる必要がありました。家畜には「必要」、荷車には「欲望」、一つの車輪には「喜び」、もう一つの車輪には「痛み」という名前を付けました。そのようにして、旅人は荷車を右へ左へと移動しながら、常に目的地を目指していました。荷車の速度が速くなるほど、同じ軸上にあった「喜び」と「痛み」の車輪が速く動き、「欲望」の荷車に運ばれていきました。旅路は長かったため、退屈でした。そのため荷車を美しい装飾で飾り立てることにしました。引き続き飾り続けていきました。「欲望」の荷車が美しくなるにつれて、「必要」の荷車は重くなっていきました。そのため曲道や急な坂道では家畜は哀れにも「欲望」の荷車を引くことができないうため弱っていきました。砂に覆われた道では、「喜び」と「痛み」の車輪は地面に埋まってしまうました。道のりは遠く、目的地までには非常に距離があり、ある日旅人は失望しました。

苦しみの癒し

その夜、抱える問題について瞑想することにしました。瞑想を始めると、古い友の嘶く声が聞こえました。その伝言を理解し、翌朝、荷車の装飾を取り除きました。そうすると重量から解放されすぐに元気になって足取り軽く目的地に向かいました。しかし、すでに失われた時間は取り戻すことはできませんでした。次の夜、再び瞑想すると再び古い友の警告を理解することができました。その警告は、開放を意味しており、今度は、2倍困難な課題にぶつかなければなりませんでした。早朝、「欲望」の荷車を取り壊しました。「喜び」の車輪を失うことになりましたが、それと共に「苦しみ」の車輪も失いました。「必要」の家畜の背にまたがり緑の草原を通過して駆け足で目的地に向かいました。

このように欲望は除外することができるのです。質の異なる欲望があります。俗悪な欲望があり、より高い欲望があります。欲望を高め、欲望を克服し、欲望を浄化しましょう。確かに喜びの車輪を犠牲にする必要があるかもしれませんが、苦しみの車輪も取り除くことができるのです。人の中にある暴力は、欲望に拍車をかけられ、良心の病としてだけではなく、他人と共に世界中で作用します。暴力とはある人々が他人を殺す戦争の武力行為のことだけを指しているわけではありません。それは身体的暴力の一形態です。経済的暴力があります。経済的暴力とは、他人を搾取するものです。経済的暴力は、他人から盗む際、兄弟関係が

なくなり兄弟の略奪者になる際に起こります。また、人種的暴力もあります。自分とは異なる人種の他人を迫害するとき、暴力が行使されないと思えますか。中傷する際に暴力が行使されないと思えますか。宗教的暴力があります。同じ宗教を信じていないために、仕事を拒否したり、扉を閉ざしたり、誰かを解雇したりするときは暴力を行使しないと思えますか。家族の中で隔離したり、最愛の人たちの間で隔離したり、名誉毀損により自分の原則に同意しない人々を隔離したりすることは暴力ではないと思えますか。自分の宗教を共有しないことを理由にするのですか。哲学的道徳によって強制される暴力の他の形態があります。自分の生き方を他人に押しつけ、他人に自分の職業を強制しなければなりません……しかし、誰から自分は従うべき例であると言われたのですか。自分が好んでいるためその生き方を押し付けることができるかと誰から言われたのですか。押し付けるべき型や模範はどこにあるのですか……他の形態の暴力があります。唯一、内なる信仰と内なる瞑想によって、自分自身、他人、そして周りの世界の暴力を終わらせることができます。暴力を終わらせるための偽りの扉はありません。この世界は爆発しようとしています、そして暴力を終わらせる方法はありません。偽りの扉を探すのは止めましょう。この狂った暴力を解決できる政策はありません。地球上の暴力を終わらせることができる党や運動はありません。世界に暴力のための偽の

出口はありません……異なる緯度の若者たちが暴力と内なる苦しみから逃れるために偽りの扉を探しているそうです。解決策として薬物を探しています。暴力を終わらせるための偽りの扉を探すことはやめましょう。

兄弟よ、これらの石やこの雪そして我々を祝福するこの太陽が単純であるように、単純な使命を果たしましょう。自分の中に平和を取り入れ、他の人にそれを取り入れましょう。兄弟よ、歴史の中では、苦しみの表情を示す人間が存在します。その苦しみの顔を見てください……しかし、前進すること、そして笑うこと、そして愛することを学ぶことが必要であることを忘れてはなりません。

兄弟よ、この希望を注ぎます。この喜びの希望、愛のこの希望は、心を高め、精神を高め、そして身体を高めます。

注記：

1. アルゼンチン軍事独裁政権により、都市におけるすべての公の行事は禁じられていました。そのため、チリとアルゼンチンの国境にあるプエンテ・デ・バカスとして知られる荒涼とした場所が選ばれました。早朝から、当局はアクセスルートを取締まっていた。機関銃、軍用車両、そして武装した人の巢窟が識別されていました。アクセスするためには、

身分証明書と個人情報を提示する必要があり、国際的な報道機関との衝突が引き起こされることもありました。雪に覆われた壮大な山を背景に、シーロは 200 人の観衆の前で演説を始めました。寒い日でしたが、晴天でした。午前12時ごろすべてが終わりました。

2. これはシーロの最初の公演会でした。多少詩的な言葉で、人生において最も重要な知識（「真の知恵」）は、本の知識、普遍的な法律などと一致するものではなく、個人的で親密な体験の問題であることを説明しました。人生における最も重要な知識は、苦しみの理解とその克服です。

次に、複数部分で構成される簡潔な論題を挙げます。1. まず身体的な痛みとその派生物を区別します。排除できない精神的苦痛とは異なり、科学の進歩と正義によりそれらは後退させることができると考えます。2. 知覚、記憶、想像の3通りにより苦しみます。3. 苦難は、暴力の状態を示します。4. 暴力は欲求に根ざしています。5. 欲望には異なる程度と形があります。これに対応して（「内的瞑想による」）、進歩が可能です。次の通りです。6. 欲望は（「欲望が俗悪であるほど」）、人々の内側にとどまらず関係媒体を汚染する暴力を動機付けます。7. 身体的暴力である主なものだけでなく、さまざまな形態の暴力が見ら

れます。8.人生を方向づける（「単純な使命を果たすこと」）単純な行動をとることが必要です。平和、喜び、そして何よりも希望をもたらすことを学ぶことです。

結論として、人類の痛みを克服するためには科学と正義が必要です。原始的な欲求を克服することは精神的苦痛を克服するために不可欠です。

内観

内観

内観

1.瞑想

1. ここで言及されるのは、どのように人生の無意味さが有意義な完全なものに変わるかです。
2. ここには、喜び、身体への愛、自然への愛、人間性への愛、魂への愛があります。
3. ここでは、犠牲、罪悪感、あの世の脅威を拒否します。
4. ここでは、世俗的なものは永遠的なものにとらえます。
5. ここで言及される内面の啓示は、慎重な瞑想の過程で謙虚な模索によって実現されます。

2.理解しようとする意欲

1. 私はあなたの現在の状況を感じる事ができるので、あなたの気持ちを理解できますが、あなたには私の言うことを理解できないかもしれません。しかし、私が、人間を幸せにし、自由にする事に興味を持たないで話しかけるなら、あなたには理解しようとする価値があります。
2. 私と議論することで理解できるとは思わないでください。議論により理解が得られると思うのであれば、この場合、それは適切な方法ではありません。
3. どのような態度がふさわしいかと聞かれるなら、急ぐことなく、ここで説明することを深く瞑想することと答えます。
4. さらに急ぐべきことがあると言うのであるなら、眠りたい、死にたいという欲望には全く反対するつもりはありません。
5. 物事を提示する私の方法が気に入らないとは言わないでください。果物が好きであるならば、その皮についてとやかく言わないのと同じだからです。

内観

6. 内なる真理からかけ離れたものを熱望する人々にとって望ましいことではなく、私にとって都合の良いように詳説します。

3.無意味

長い間にわたって私はこの大きな逆説を発見しました。心に失敗をもたらした人々は、最後の勝利で照らし出すことができ、勝利感を味わった人々は、最終的に道端で放棄され、退屈で暗い人生を生きることになりました。長い間にわたって私は、教えによってではなく、瞑想によって導かれ、最も深い闇から光へ辿り着きました。

1 日目に、私は自分自身に次のように語りました。

1. すべてが死で終わるなら、人生に意味はありません。
2. 卑劣なものであろうと素晴らしいものであろうと、行動の正当化は、常に先に空虚感をもたらす新たな夢となります。
3. 神は不確実なものです。
4. 信仰は理性や夢のような不安定なものです。

内観

5. 「何をすべきか」は完全に議論することができるが、説明を支持するものは決定的には何もありません。
6. 何かを約束する人の「責任」は、約束しない人の責任よりも重くありません。
7. 自分の関心にしたがって動くが、これにより私は臆病者になるのでもなく英雄になるのでもありません。
8. 「私の関心」は何かを正当化したり信用したりするものではありません。
9. 「私の理性」は他人の理性より良くも悪くもありません。
10. 残酷さに恐怖を感じるが、残酷さのためではなく、それ自体が善良性よりも悪いか良いかということです。
11. 今日、私や他人が発言することは、明日には価値がなくなっています。
12. 死ぬことは、生きていることや生まれてこなかったことより良いわけでもなく、悪いことでもありません。

内観

13. 私は教えによってではなく、体験と瞑想によって、すべてが死で終わるなら、人生に意味はないことを発見しました。

4.依存

2 日目。

1. 私が行うこと、感じること、考えることは、すべて私に依存するものではありません。
2. 私は可變的であり、媒体の作用に依存しています。媒体を変えたいとき、あるいは自分の「私」を変えたいとき、それは私を変える媒体となります。そして私は都市や自然、社会的救済、あるいは私の存在を正当化する新たな格闘を探求するのです。各場合に依りて、この手段によって私はある姿勢を決定するこ

内観

とができます。そうして、私の関心と手段により私はこの場所に置かれます。

3. 誰が何を決めるのかは関係ありません。そのような生きるべき機会のことを言及していません。私は生きる状況にあるのです。私はこのように述べますが、それを正当化するものは何ともありません。私は決定すること、躊躇すること、あるいは留まることができます。いずれにせよ、あるものは別のものよりも暫定的に優れていますが、最終的に「良い」または「悪い」ものはありません。
4. 食べない人は死んでしまうというなら、その通りであると答えます。これは事実上、必要に迫られ食べることを強いられているからであり、食べる闘いにより存在が正当化されるわけではないことを付け加えます。それが悪いことであると言うつもりもありません。私は、単純に、個々の行為であること、または、生存のために集合的に必要であるが、

最後の戦いに敗れた時には無意味であると言うでしょう。
5. 私は、さらに、貧しい人々、搾取された人々、迫害された人々の闘いを支持します。私は、このような識別として「充実感」を得ていま

内観

すが、正当化されるものは何もないことを理解するでしょう。

5. 予測的意味

3 日目。

内観

1. 私は、後に起こった出来事を予想したことがあります。
2. 私は、かけ離れた考えを把握したことがあります。
3. 私は、一度も訪れたことのない場所について描写したことがあります。
4. 私は、自分の不在時に起こったことを正確に話したことがあります。
5. 私は、計り知れない喜びに圧倒されたことがあります。
6. 私は、完全な理解に侵されたことがあります。
7. 私は、すべてのものとの完全な交わりに無我夢中になったことがあります。
8. 私は、自分の夢を壊し、新しい方法で現実を見たことがあります。
9. 私は、初めて見たものを再び見たものであると認識したことがあります。

……そして、これらすべてについて思索しました。私は、これらの体験なしでは、無意味から逃れることはできなかったことに気づきました。

内観
6.睡眠と覚醒

4 日目。

1. 私は自分の夢の中で見るもの、半睡眠状態で見るもの、目覚めているときに空想するものを現実のものにすることはできません。
2. 私は覚醒状態で見るものを空想することなく実感できます。構想された「情報」を意味する場合、これは私の感覚に記録されるものではなく、私の心の活動によるものです。信憑性や信頼性の低い情報は、外的感覚、内的感覚、そして記憶によっても伝えられるからです。つまり、私の心は目覚めているとき、知ることができ、眠っているときは、信じることしかできません。現実を新しい方法で知覚することはめったにないため、見たものは通常夢で見たものに似ているか、半睡眠状態で見たものに似ていると理解するのです。

覚醒状態を保つ現実的な方法があります。それはこれまで述べてきたことについて深く瞑想することに至った方法であり、存在するすべての物事の意味を発見するための扉を開いた方法です。

7.力の存在

5 日目 :

1. 本当に目覚めているときに、理解が、さらなる理解へと拡大していきました。
2. 本当に目覚めているときに、上昇を続ける力が欠けていると、自分の中から力を引き出すことができました。この力は私の体全体に存在していました。すべてのエネルギーは、体の最も小さな細胞にまで存在し、私の血液よりも迅速かつ激しく循環しました。

エネルギーが循環していたとき、それは血液よりも速く、強烈でした。

3. これらが作用する時にエネルギーが私の体の各点に集中し、作用しない時には存在しないことを発見しました。
4. 病気の際には、エネルギーが足りなくなったり、侵された私の体の部分に正確に蓄積されたりしました。しかし、エネルギーの正常な流れが回復されると、多くの病気が後退し始めました。

内観

ある村では、このことが知られており、今日では奇妙に思える様々な方法でエネルギーの流れを回復させていました。

ある村では、このことが知られており、そのエネルギーを他人に伝達していました。そして、理解の「悟り」と物理的な「奇跡」が起こりました。

8. 力の制御

6 日目。

1. 身体を循環する力を誘導し、集中させる方法があります。
2. 身体には、制御点があります。それらは、動作、感情、思想など我々が認識するものによって変化します。エネルギーがこれらの点で作用するとき、運動的、感情的、知的な症状が現れます。
3. エネルギーが体内のより内部に、または表面的に作用するかどうかに応じて、深い眠りの状態、半睡眠状態、または覚醒状態が起こります。確かに、宗教画の中で聖人 (または輝く偉人) の体や頭を取り巻くハローは、エネルギー

内観

一の現象をほのめかしており、時には、より外的に現れます。

4. 真の覚醒状態には制御点があり、この点に力を誘導する方法があります。
5. エネルギーがこの点に導かれると、他のすべての制御点は変更されて移動します。

これを理解し、この卓越した点に力を投げつけると、私は体全体に巨大なエネルギーの影響を感じ、このエネルギーは私の意識の中で力強く打たれ、理解が、さらなる理解へと拡大していきました。しかし、エネルギーの制御を失った場合、心の奥底に下げることができることにも気が付きました。そして、これらの精神状態の境界線を見て、私は「天国」と「地獄」の伝説を思い出しました。

-

9. エネルギーの出現

7 日目。

1. この運動エネルギーは、統一を維持しながら身体から「独立」することができます。
2. この統一エネルギーは一種の「二重体」であり、表現空間内での身体の運動学的表現に対応しているものでした。この空間の存在、そして身体の内部感覚に対応する表現の存在など、精神現象を扱う科学は十分に認められていませんでした。
3. 展開されたエネルギー（すなわち、身体の「外側」またはその基材から「分離された」と想像されるもの）は、イメージとして分解

内観

されるか、そのように操作していた人が有する内部統一に応じて正しく表現されました。

4. 身体の「外」として身体を表現するそのエネルギーの「外部化」が、最低水準の心からでも作り出すことができることを確認できました。そのような場合、最も基本的な生命単位への攻撃により、脅迫の保護としてそのような反応が引き起こされました。意識水準が低く、内部統一が危機にさらされている媒体の昏睡状態では、これらの反応は非自発的なものであり、それ自体によって生み出されたものとして認識されたのではなく、他の実体に起因していました。

ある村や占い師の「幽霊」や「霊」は、霊ではなく、幽霊や霊に取りつかれたと感じる人々自身に「非常によく似た人」（自身を表現するもの）でした。力の制御を失ったことで、彼らの精神状態は暗くなり（昏睡状態）、時には驚くべき現象を作り出し、奇妙な存在によって制御されていると感じることがありました。確かに、「悪魔に取りつかれた」多くの人々がそのような影響を受けていました。決定的だったのは、その力の制御でした。

内観

これにより、日常生活と死後の世界の両方の私の概念は完全に変わりました。このような考えと体験により私は死への信仰を失い始め、そして今、私はもはや生命の非意味を信じることもなく、死への信仰も有していません。

10. 意味の証拠

8 日目。

1. 目覚めた人生の真の重要性が明らかになりました。
2. 内的矛盾を破壊することの真の重要性を納得しました。
3. 統一と継続を達成するために、力を管理することの真の重要性に幸せを感じました。

11. 発光中心

9 日目。

1. 力に「中心」から来た「光」がありました。
2. エネルギーの消滅は中心から離れており、その統一と進化には発光中心に対応する機能がありました。

私は古代の村で太陽神への献身を見いだしても驚くことはありませんでした。その土地と自然に命を与えるため、星を崇拜する人がいると、他の人たちはその雄大な体の中でより大きな現実の象徴を警告しました。

さらに遠くに行き、その中心から無数の贈り物を受け取った人たちがいました。ある時は、火の舌のように靈感を受けた人々の上に「下降」し、ある時は、光球のように、ある時は、怯えた信者の前に現れた燃える茂みのようでした。

内観
12.発見

10 日目。

わずかながら、重要な発見を次のように要約します。

1. 力は不本意に体の中を循環しますが、意識的な努力によって導かれることができます。意識水準における、意図的な変化の達成は、「自然な」状態からの解放の重要な兆しを人間に与え、それは意識を押しつけられているように見えます。
2. 身体には、その多様な活動を制御する点が存在します。
3. 真の覚醒状態とその他の意識水準との間には違いがあります。
4. 力は、真の覚醒点に伝導することができます(特定のイメージに付随する精神的エネルギーを「力」として、そして表現空間の「場所」におけるイメージの位置を「点」として理解します)。

これらの結論により、古代の人々の祈り、儀式および外部修行で不明確になった偉大な真実の芽生えは、内なる取り組みを発展させることなく、完璧に行われて、発光源と人間を接触させることを認識させられました。最後に、私の「発見」はそのようなものではなく、矛盾なく自分の心の中で光を求める内的啓示によるものと警告しました。

13. 原則

内的啓示が稲妻のように打たれるとき、人生と物事に対する態度は異なります。

ゆっくりと手順に従いながら、言われたこと、まだ言われていないことを瞑想し、無意味を意味に変換することができます。人生で何をすべきか重要ではありません。法律に従う自分の人生は、選択の可能性にさらされています。私は自由について話しているわけではありません。解放、運き、手順について話しています。自由を何か静的なものとしてではなく、自分の都市に近づく人たちが旅路から解放されるように、一歩ずつ解放することを語るのです。ですから、「何をすべきか」というのは、遠い、理解できない、慣習的な道徳に依存するのではなく、法律、つまり生命、光、進化の法則によって決まるのです。

内部統一の探求に役立つ「原則」を次に示します。

1. 物事の進化に対抗することは、自分自身に対抗することです。
2. ある目的に向かって何かを強制すると、反対を生み出します。

内観

3. 偉大な力に反発しないでください。力が弱まるまで後退し、それから解決を進めます。
4. 孤立することなく共に移動すると、物事はうまく行きます。
5. 昼と夜、夏と冬が心地良いと感じるなら、矛盾を克服しています。
6. 喜びを追い求めるなら、苦しみに束縛されます。しかし、健康を害さないようにし、機会が訪れたときは抑制することなく楽しみましょう。
7. ある目的を追求するなら、自分を束縛することになります。それ自体を目的としてすべてを行うなら、自由になります。
8. 解決したいときではなく、根源で理解するとき、自身の葛藤が消えるようになります。
9. 他人を傷つけるとき、自分を束縛することになります。しかし、他人を傷つけないのであれば、自分が望むことを自由に何でも行うことができます。
10. 自分が扱われたように他人を扱うとき、自分自身を解放することができます。
11. どんな事の成り行きに自分がおかれているかに関係なく、重要なのは、いかなる側面も自分は選択していないことを理解することです。

内観

12. 矛盾行為、または統一行為は自分の中に蓄積します。内部統一の行為を繰り返すならば、何にも拘留されることはありません。

その通過に抵抗がないとき、あなたは自然の力のようになります。矛盾とされる困難、問題、不便を区別することを学びましょう。動かされたり誘惑されたりするなら、囲いの中で身動きできないようにされます。

心の中に大きな力と喜びと優しさを見いだすとき、あるいは自由に矛盾がないと感じるときには、即座に内部で感謝の気持ちが起こります。その反対の場合は、信仰をもって求めると、蓄えられた感謝が、益として変化し、増幅されて戻ってきます。

14. 内なる道への導き

私がこれまでに説明したことを理解できたなら、単純な取り組みにより、力の現れを体験することができます。確かに、詩に触発されたものに近い調子と感情的な開放性を想定することは、ほぼ正しい精神的位置を観察するのとは異なります（あたかも技術的作業の規定であるかのように）。これらの真理を伝えるために使われる言葉は、「内的知覚」という考えの存在ではなく、内的知覚の存在になることを容易にする態度を促進することを意図しています。

今から説明することを注意深く聞いてください。力を働かせる際に遭遇できる内面の風景および精

内観

神的な動きに伝えられる方向について取り上げます。「内道は、暗いところを歩いたり、明るいところを歩いたりできます。目前に開かれる 2 本の道に注意してください。

暗い領域に自分の存在を放り入れられることを可能にするならば、自身の体は戦いに勝ち、体を支配することができます。すると、霊、力、記憶の感覚と出現が起こります。この道は、さらに下り坂になります。そこには憎しみ、復讐、残念、所持、嫉妬、そして留まる願望が宿ります。さらに下れば、欲求不満、憤り、そして人類に破滅と死をもたらすあらゆる夢や欲望に侵略されます。

自分の存在を明るい方向に向けると、あらゆる段階で抵抗と疲労を感じるでしょう。上昇による疲労は他人のせいにすることができます。人生の重さ、思い出の重さ、過去の行動は上昇を妨げます。この上昇は、身体の行為によって支配される傾向があるため困難です。

上昇の過程では、純粋な色と未知の音のある奇妙な領域に遭遇します。

火のように振る舞い、幽霊が恐怖を与える浄化から逃避しないでください。

恐怖と落胆を拒絶してください。

低く暗い領域への逃避願望を拒絶してください。

内観

思い出への愛着を拒絶してください。

上昇することを決意し、風景を夢見することを無視して、内部の自由にとどまりましょう。

純粋な光が高い山脈の頂上を照らし、千色の水は、聞き分けることのできない旋律を奏でながら平坦な草原の間に降り注ぎます。

中心からより強く遠ざけられるような光の圧力を恐れてはいけません。確かに、光の中に生命があるため光を液体または風のように吸収しましょう。

素晴らしい山脈の中に秘密の都市を発見した時は、その入り口を知る必要があります。しかし、それは人生が転換される瞬間に知ることができるでしょう。その巨大な壁は、図で描かれており、色で描かれており、「感知」されています。この都市では、過去のものおよび未来のものは保持されず……しかし、内なる目では透明は不透明に見えます。そうです、壁は突き抜けられません。

秘密の都市の力を受け入れましょう。自分の額と輝く手で密度の高い人生界に戻りましょう。」

15. 平和の体験と力の通過

1. 体を完全にリラックスさせ、心を鎮めましょう。次に、透明で明るい球体が降りてきて、心にとどまるのを想像してください。その瞬間、球体がイメージとして表示されなくなり、胸の中の感覚に変化することをすぐに認識できます。

内観

2. 呼吸がより充実して深くなる一方で、球体の感覚が心から身体の外側に向かってゆっくりと広がっていく様子を観察してください。感覚が身体の限界に達したとき、そこですべての操作を止めて内なる平和の体験を認識することができます。好きなだけそこに留まることができます。

そして以前の拡張を後退させ（最初に心に到達した時のように）球体を手放し、落ち着かせて穏やかに運動を締めくくります。この活動は「平和の体験」と呼ばれます。

3. その代わりに力の通過を体験したい場合、拡張を後退させるのではなく、感情と自身全体を従わせることによって力を増大させる必要があります。呼吸に意識しないようにしてください。身体の外に拡張されている間、作用を自然に続行させましょう。
4. これを繰り返します。そのような瞬間、拡張する球体の感覚に注意する必要があります。これを達成できない場合は、一度止めて、再試行することを勧めます。いずれにせよ、力の通過が生成できない場合でも、興味深い平和の感覚を体験することができるようになります。

内観

5. その一方で、さらに前進すると、力の通過を体験し始めるでしょう。手や身体の他の部分から、いつもとは違う感じの抑揚を感じるでしょう。それから起伏が激しくなることに気づき、すぐにイメージと感情は活気にあふれます。通過が起こるのを待ちましょう……
6. 力を受け取ると、習慣的な特定の表現方法に応じて、光や奇妙な音を知覚します。いずれにせよ重要なのは意識の広がりを経験することであり、その指標の1つは、何が起こっているのかを理解しようとする明快さと意欲であるべきです。
7. 望む場合はいつでも、その特異な状態を終了できます（単に通過させることによって弱められていないなら）。初めに到達した時と同じ方法で、球体が収縮して自分の中から出ていくのを想像したり感じたりしてください。
8. 多くの変更された意識状態が、ほとんどの場合、記述同様の仕組みを設定することによって達成されてきたこと、そして達成されていることを理解しましょう。しかし、これらは奇妙な儀式に覆われていたり、時には極度の疲労、奔放な運動活動、反復および、多くの場合、呼吸を変え、体内の一般的な感覚を歪める姿勢によって強化されたりします。この

内観

分野では、催眠、霊媒そしてまた薬物の作用を認識しなければなりません。それらすべては、他の手段で作用し、同様の変更を生み出します。言及されたすべての状況は、非制御と無知の兆候があります。そのような兆候を信用せず、

無知な人、実験者、そして伝説上の「聖人」までもが体験した単純な「昏睡状態」と見なしてください。

9. これらの推奨に従っている場合でも、まだ力の通過を達成することができないことがあります。これは心配の焦点にはならず、内部の「ゆるみ」の欠如の指標として、

強い緊張感、イメージ機能における問題、要するに、感情的行動の断片化が反映されている可能性があります。さらに、一方では、日常生活の中に存在するでしょう。

16.力の投影

内観

1.力の通過を体験したなら、似たような現象に基づき、何の知識がなくても、多くの人々がどのようにして儀式やカルトを作り出し、それらが絶え間なく増大しているかを理解することができます。先に述べたような体験を通して、多くの人々は、自分の身体が「展開」していると感じています。力の体験によって、自分の外部でこのエネルギーを投影できるという感覚を得ています。

2.力は、他人や、それを受け取って維持するのに特に「適合」する物体にも投影されました。様々な宗教で行われる特定の秘跡の役割、そして同様に神聖な場所や司祭たちに力が「充満」しているという意味を理解することは難しくないと確信します。神殿においてある物体が信仰崇拜された場合や式典や儀式が伴う場合、確かに、繰り返される祈りによって、蓄積されたエネルギーは信者に「戻されました」。基本的な内的体験が、これらの事項について理解するために不可欠な情報であるなら、常に、文化的、地理的、歴史的、または伝統的に外部の説明によって、これらを見てきた人にとって、それは人間の事実に関する知識の限界となります。

3. 力の「投影」、「負荷」、「復元」に、後に我々は再度支配されます。しかし、同様の仕組みが、荒廃した社会においても機能し続け

内観

ていることを強調します。指導者や名声のある人たちが特別な存在とされ、その人たちに会うこと、あるいは更には「触れること」や衣服の一部やその道具を入手することを望むまでに至るのです。

4. なぜなら、「高」の表現はすべて、普通の視線よりも上に向かっているからです。そして、「高」とは、長所、知恵、そして力を「保有する」個性です。そして「高」には、階層と権力、そして旗と国家があります。そして、我々、普通の人間は、どんなに犠牲を払っても、権力に近づくために社会的地位を「登る」必要があります。頭は「高い」位置において、足は地面で立ち往生している内部表現と一致するこれらの仕組みによって支配されていると、非常に悪い状態におかれます。これらのことを信じているとき、非常に悪い状態におかれます（そして、内部表現に独自の「現実」があるため、信じるのです）。外視が外視でなく、内部の気づかない投影であるとき、非常に悪い状態におかれるのです。

17.力の消失と抑圧

1. エネルギーの最大の解放は、制御不可能な行為により発生します。それらは、奔放な想像力、無制御の好奇心、度を越した雑談、過度のセクシュアリティ、および誇張された知覚です（圧倒されて目的なく、見ること、聞くこと、好むことなどです）。しかし、緊張を取り除くために、他の方法では痛ましいため、多くがそのように行われていることを認識しなければなりません。そのような解放を行う機能を見て、それらを抑圧するのではなく、むしろそれらを命令することが合理的であると考えることに同意するでしょう。
2. セクシュアリティについては、正しく解釈する必要があります。この場合、致命的な効果と内部矛盾を生み出すため、そのような機能は抑制されるべきではありません。セクシュアリティはその行為の中で方向づけられ、結論付けられています。強迫観念で想像力に影響を及ぼしたり新しい所有物を探し続けたりするのは有用ではありません。
3. 社会的または宗教的な特定の「道徳」による性の抑制は、進化とは無関係であり、むしろ逆の目的を果たしてきました。

内観

4. 力（身体内の感覚表現のエネルギー）は、抑圧社会では、薄明薄暮性に向かって展開しており、「悪魔」、「魔術師」、冒瀆者、そしてあらゆる犯罪者の例は増加し、苦しみと生命と美の破壊を享受しています。一部の部族や文明では、犯罪者は死刑執行人と死刑囚に分けられました。他の場合では、不合理、薄明薄暮性、そして抑圧に反対したため、科学と進歩すべてが迫害されました。
5. ある原始民族では、性の抑制は依然として存在し、他の国々と同様に「先進文明」と見なされている場合もあります。これらの状況の起源は異なるかもしれませんが、どちらの場合も破壊的な兆候が大きいことは明白です。
6. さらに説明を求められるなら、性は実際には聖なるものであり、人生とすべての創造性が推進される中核であると述べます。そこから、その機能が解決されないときにも破壊は促進されます。
7. 性が卑劣なものとして言及される場合、人生の毒物となる嘘を決して信じてはなりません。逆に、それは美であり、紛れもなく愛の最高の感情に関連しています。
8. そのため、性には配慮すべきであり、生命エネルギーの矛盾や崩壊剤の源とならないよう、

内観

繊細さをもって素晴らしい驚異として扱うよう考慮してください。

18.力の作用と反作用

先にこのように説明しました。「心の中に大きな力と喜びと優しさを見いだすとき、あるいは自由を感じて矛盾がないときには、即ち内部で感謝の気持ちが起こります。」

1. 「感謝する」とは、イメージや表現に関連する肯定的な気分を集中させることを意味します。このように繋がりのある肯定的な状態は、好ましくない状況では、前の瞬間にそれに付随したことを引き起こすことを可能にします。さらに、この精神的な「負荷」は、以前の繰り返しによって上昇する可能性があるため、特定の状況が強いる可能性がある否定的な感情を排除することができます。
2. したがって、自分自身の中に多くの肯定的な状態を蓄積することを常に求める自身の内部からその恩恵を受け増幅されることでしょう。そして、この仕組みは（混乱して）、要求および要請に応答されるものと信じて、物体や人々または外部委託された内部の主体を「外部に負荷」するのに役立ったことを繰り返し述べるつもりはありません。

19.内的状態

今、自分の人生を通して、特に進化的な取り組みの過程で自分自身を見いだすことができる内部状態の十分な認識を得る必要があります。イメージを用いる以外に、説明する他の方法はありません（この場合、寓意）。これらは、「視覚的に」複雑な気分を集中させるという長所があるように思えます。その一方で、そのような状態を連鎖する特異点は、あたかもそれらが同じ手順の異なる瞬間であるかのように、これらを扱う人々により、慣れ親しんできた説明に、常に断片化された異形が導入されていることです。

1. 無意味が優勢である（最初に述べた）最初の状態は、「びまん性活力」と呼ばれます。すべてが物理的な必要性によって方向づけられています。これらはしばしば矛盾する欲求やイメージと混同されています。動機と取り組みは暗闇に包まれています。さまざまな形に紛れて植生状態に留まっています。その時点から、死の道または突然変異の道の2本の道でのみ、進化することができます。
2. 死の道では、混沌とした暗い風景の中に置かれます。古代人はこの道を知っており、ほと

内観

んどの場合「地下」または深海の深さに置かれていました。また、後に輝くレベルで「復活」するためにその王国を訪れる人もいました。これは、死の「下降」にはびまん性の活力があることをよく表しています。おそらく、人間の心は、死の崩壊を後の変容現象と関連付けており、また、拡散運動を出生前のものと関連づけているのかもしれませんが。上昇方向に向かっている場合は、「死」は、前段階を乗り越えることを意味します。死の道を通ることによって、別の状態に上昇します。

3. そこに到着すると、回帰の避難所があります。そこから2つの道が開きます。一つは悔い改めの道です。もう一つは、上昇のために使用した道、つまり死の道です。前者の道を選ぶ場合、自身の決定により過去の人生を壊す傾向があるからです。死の道を通って戻った場合、円環に閉じ込められているという感覚で、再び深淵に落ちます。
4. 先に、活力の深淵から逃げるためのもう一つの道があると述べましたが、それは突然変異の道です。その道を選ぶ場合、困惑した状態から抜け出したいが、その明白なある利点を放棄することを望んでいないからです。したがって、それは「曲がった手」として知られる偽の道です。多くの怪物がその曲がりくねった道の奥深くから現れてきました。地獄を

内観

離れることなく強襲によって天界を支配することを望んだため、世界に無限の矛盾を投影しました。

5. 死の王国から上昇し、意識的な悔い改めによって、すでに傾向の住み家に到達したことと思います。2つの薄い蛇腹が住み家を支えています。それは、保全と欲求不満です。保全は偽であり不安定です。この道を歩いていると、永続性の考えに駆り立てられますが、現実には急速に下降します。欲求不満の道をたどる場合、唯一偽ではありませんが、上り坂は痛みを伴います。

6. 失敗しながら、「迂回の住み家」と呼ばれる次の休息場所に到達することができます。先に現れる2つの道に注意してください。誘発へと導く解決の道を選ぶか、再び回帰に向かって下降する憤慨の道を選ぶことになります。そこでは、板ばさみに遭います。意識的な人生の迷路を選ぶか（そしてあなたはそれを決心して行きます）、以前の人生に憤慨して戻ってくるかです。そこで、克服できない多くの人が、自分の可能性を切り取っています。

7. しかし、解決して登ると、今度は「誘発」として知られている宿に着きます。そこで、3つの扉に直面します。1つ目は「落下」、2つ目は「試行」、3つ目は「墮落」と呼ばれます。

内観

落下により、直に奥深くへ連れて行かれます。そして、外的事故だけがその方向へ押しやることができます。その扉を選択することは困難です。一方、「墮落」の扉は、道を引き返しながら、失われたものや犠牲にされたものすべてを継続的に再考する一種の混乱したらせん降下により深淵に間接的に導きます。墮落につながる意識の考査は、過小評価し、比較するいくつかのことを不均衡にするという誤った考査です。上昇の努力を、放棄したそれらの「利益」と比較します。しかし、より密接に物事を見ると、上昇のためにではなく、むしろ他の理由のために放棄していることがわかります。その後、実際に上昇に関連していない動機を偽造し始めるとき、墮落が始まります。私は今疑問に思います。何が心を裏切るのでしょうか。最初の熱意の誤った動機でしょうか。対処の難しさでしょうか。存在したことの無い犠牲の偽の記憶、または、他の動機のために駆動されたのでしょうか。あなたの家は、ずっと前に焼失したのでしょうか。そのため、上昇を決めたのです。それとも、上昇することによって焼失したと思うのですか。周りの他の家に何が起こったか気づいたことがありますか。真ん中の扉を選択しなければならぬことは間違いありません。

内観

8. 試行の階段を登ると、不安定な丸屋根に到達します。

そこから、「一定しない」狭い曲がりくねった通路を通り、広々としたからっぽの（台地のような）場所に移動してください。その場所の名前は、「エネルギーの開放空間」です。

9. その空間では、砂漠や広大な風景と巨大な不動の星によって変貌した夜の恐ろしい沈黙におびえることでしょう。そこで、頭上に、黒い月の焼けるような形が空に立ち往生しているのを見るでしょう。それは、まさしく太陽に反する奇妙な月食です。そこでは、落ち着いていけば悪いことは起こり得ないため、夜明け、忍耐強く、信仰をもって夜明けを待つ必要があります。

10. そこからすぐに逃れられる出口を見つけたい状況が起こる可能性があります。そのような状況が起こった場合、賢明にその日を待っていない限り、あらゆる場所を模索することになるでしょう。そこでの（暗闇の中）すべての動きは偽であり、一般的に「即興」と呼ばれていることを覚えておいてください。

私が今言及したことを忘れて、動きを即興し始めるなら、確かに、消滅の最も暗い底まで

内観

の道と住み家の間で旋風に引きずられること
になります。

11. 内部状態が互いに連鎖していることを理解するのは非常に難しいことです。柔軟性のない論理が意識にあることがわかるとしたら、盲目的に致命的な即興を始める人は、衰弱し始め、墮落し始めることに気づくでしょう。それから、欲求不満の気持ちが起こり、憤慨と死に陥り、かつて知覚することができたすべてを忘れることになります。
12. 台地でその日に到達することに成功した場合、はじめて現実を照らさなければならない輝く太陽が目前に現れます。そうすると、存在するすべてのものに計画があることがわかります。
13. 自発的に、より暗い領域に降りて光を暗闇にしたいのであれば、そこから落下することはありません。

これらの問題をさらに展開させる価値はありません。体験なしでは誤った方向に導き、実現可能なものを架空の領域に移動させるからです。これまでに述べたことが役立つことを願っています。説明したことが役立たなかった場合、異議を申し立てることは無意味です。鏡の中の姿、反響音の音、

内観

影の陰のようなものであり、懷疑的には、何も根拠と理由はありません。

20. 内的現実

1. 私の考慮事項に注意してください。直感的になる必要はありませんが、外界の寓意現象や風景を見つける必要があります。しかし、それらには精神的な世界の真の描写があります。

内観

2. また、通る「場所」に、ある種の独立した存在があると信じてはなりません。このような混乱は、多くの場合、深い教えが隠されており、今日まで、天、地獄、天使、悪魔、怪物、魔法にかかった城、人里離れた街などには、「悟りを」開いた人々には目に見える現実があると信じられています。同じ偏見は、逆の解釈により、単純な幻想や熱狂的な心で苦しむ幻覚により愚かな懷疑論者によって維持されています。
3. 繰り返しになりますが、これらのすべてにおいて、これらは真の精神状態であることを理解する必要があります。ただし、これらは外界に属する物体で象徴されています。
4. 述べたこと考慮に入れて、寓意の背後にある真実を発見することを学びましょう。時々心を紛らわしますが、他の人々は表現なしでは把握することが不可能な現実を変換しているのです。

様々な村の多くの英雄が到着したがった神々の都市の話、神々と人々が変貌した本来の自然の中で一緒に住んでいた楽園の話、滝や洪水の話がされた時、偉大な内部の真実が語られました。

内観

それから救済者は伝言をもたらし、二重の性質で我々のところにやってきて、その郷愁を誘う失われた統一を回復しました。そして、偉大な内面の真実についても語られました。

しかし、心の外に置いて言う際、間違ったり嘘をついたりしました。

逆に言えば、外の世界は内的な視線と混同して新しい道へと駆り立てます。

したがって、今日この時代の英雄たちは星に向かって飛びます。以前は無視されていた領域を飛びます。

その世界から飛び出し、そして無意識のうちに、内側の明るい中枢に推進されます。

注記

『内観』は 20 章で構成され、各章はいくつかの部分に分けられています。次のように、本の主要な目的を分類することができます。

内観

- A. 最初の2つの章は序論であり、説明者の意図、参加者の態度、そしてこの関係を実行する方法を提示します。
- B. 第3章から第13章までは、最も一般的な題目が展開されており、それらを10「日」の考察で説明しています。
- C. 第13章は変化を示します。一般的な解説により、人生に対する行動や態度を検討します。
- D. 次の章では内なる取り組みについて考察します。題目の順序は次のとおりです。
 - I. 瞑想 - 本の目的: 無意味から有意義への変換。
 - II. 理解しようとする意欲 - 問題を理解するために求められる精神的な位置。
 - III. 無意味 - 生と死の意味。
 - IV. 依存 - 人間に対する媒体の作用。
 - V. 予測的意味 - いくつかの珍しい精神的な現象。
 - VI. 睡眠と覚醒 - 意識のレベルと現実の認識の違い（眠り、半睡眠状態、夢を見る覚醒、そして完全な覚醒）。外的、内的感覚および記憶。

内観

- VII. 力の存在 - 覚醒状態での理解の高まり。身体に落ちていて移動するエネルギーまたは力。
- VIII. 力の制御 - 意識レベルに関連するエネルギーの深さと表層性。
- IX. エネルギーの出現
エネルギーの制御と非制御
- X. 意味の証拠 - 内部の矛盾、統一および継続。
- XI. 発光中心 - 「発光中心」の内部の寓意化に関連するエネルギー。内部統合の現象は「光に向かって上昇します。内部消滅は「光の隔離」として記録されます。
- XII. 発見 - エネルギーの循環。レベル。力の性質は「光」として表されます。これらの主題に関する村々の例。
- XIII. 原則 - 内部統一のための基準としての原則。
- XIV. 内なる道への導き 「降下」と「上昇」の方向を伴う現象の表現。
- XV. 平和の体験と力の通過 - 手順。
- XVI. 力の投影 - 「投影」の意味。
- XVII. 力の消失と抑圧 - エネルギーの解放。エネルギーを生産する中心としての性の交わり。

内観

- XVIII. 力の作用と反作用 - 感情的な負荷への表現の関連性。感情的な状態に繋がるイメージの喚起は、関連する感情的な状態を再び喚起させます（戻します）。日常生活に取り入れることができる感情的な状態へのイメージの関連付けの手法としての「感謝」。
- XIX. 内部状態 - 内なる取り組みに興味がある人が遭遇できる精神的な状況。
- XX. 内的現実 - 精神的プロセスは外界の寓意的な表現と繋がっています。

伝言
伝言

シーロの見解

2008年4月、プエンテ・デ・バカス、研究内省パーク・ワークセンター

(第三回目発信、silonet.net)

今日は、世界のさまざまな拠点に集まっている使用者向けに話をします。我々の見解は『伝言』の最も一般的な特徴を参照する必要があります。

『伝言』の背景

まず初めに 1969 年に製作された 2 つの資料にある『伝言』の背景を考察します。一作目は、1969 年にこの場プエンテ・デ・バカスで書き始め、1972 年に初めて出版された『内観』として知られる作品です。第 2 の背景は、『苦しみの癒しの説教』として知られており、同地で 1969 年 5 月 4 日に行われた講演です。

これらの資料はさまざまな形式で配布され続け、それらは展開され異なる題目の書籍として出版され、最終的には著者の『全集』の巻が構成されました。生み出されたすべての作品は、前述の 2 つの背景に適応させ題目を展開していった集成に他ならないといっても過言ではありません。そのため、この作品は文学、心理学、社会学、その他の

伝言

さまざまなジャンルに分けることができますが、その詳細の中核は前述の2つの背景にあります。そのため、さまざまな執筆や講演は、先に言及した基本的な作品の拡張、展開、そして説明にすぎません。

先日、『シーロの伝言』という題名で2002年7月に出版された巻の中で初めて取り上げられた『伝言』が登場しました。これらの執筆は内部的に次の3部に分けられます。「本」、「体験」そして「道」です。

「本」は、『内観』のことです。「体験」は、8つの儀式を通して具体化された『伝言』の実用的な部分です。最後に、「道」は、内省および提言の集成です。

以上が、『伝言』およびその背景についての考察です。そして、『苦しみの癒しの説教』で挙げられているいくつかの題目について簡単に拡張したいと思います。参考として役立ち、痛みと苦しみの区別に言及しており、個人、そして社会的に重要な主題の展開が行われています。

伝言

背景『説教・苦しみの癒し』

説教の中では人生における最も重要な知識は、苦しみの理解とその克服です。重要なのは、肉体的痛みと精神的苦痛を区別することです。

知覚、記憶、想像の3通りにより苦しみます。苦しみは暴力の状態、恐怖につながる暴力を示します。今あるもの、既に失ったもの、到達できないものを失うことへの恐れです。保有していないため、あるいは、病気、貧困、孤独、そして死への恐怖など一般的に恐れを抱いているため苦しむのです。暴力は欲求に根ざしています。欲望は、最も過度な野心から最も単純で最も合法的な願望まで、さまざまな程度と形で現れます。

内部の瞑想によってこの点に注意を払って、人間は人生の方向を変えることができます。

欲望は、人々の内側にとどまらず関係媒体を汚染する暴力を動機付けます。

身体的暴力である主なものだけでなく、さまざまな形態の暴力もここで見られます。もちろん、それに加えて、経済的暴力の形態、人種的、宗教的、性的、心理的、道徳的およびその他の多少なりとも巧みに隠れたまたは偽装された……そして多少隠されたもの、または偽装されたものもあります。

[『苦しみの癒しの説教』からの抜粋: 「人の中にある暴力は、[…]世界に暴力のための偽の出口はありません。」]

伝言

この説教では、人生を導く単純な行動をとる必要性が強調されています。そして痛みを乗り越えるには科学と正義が必要だとも言われています。原始的な欲求を克服することは精神的苦痛を克服するためには不可欠です。

この説教から多くの要素が、『地球の人間化 (*Humanizar la Tierra*)』、『友人への手紙 (*Cartas a mis amigos*)』、『人文主義辞典 (*Diccionario del Humanismo*)』、『話せ、シロロ (*Habla Silo*)』などの本、および『有効な行動 (*La Acción Válida*)』、『人生の意味 (*El sentido de la vida*)』、『人文主義と新世界 (*Humanismo y nuevo mundo*)』、『文明の危機と人文主義 (*La crisis de la civilización y el humanismo*)』、『普遍主義的人文主義によって今日何が理解できるのであるか? (*¿Qué entendemos hoy por humanismo universalista?*)』などの解説に移されています。

背景・書籍『内観』

もう一つの背景である『内観』は人生の意味について述べられています。それが実行される主な題目は矛盾の心理的状态です。そこでは矛盾のある記録があることが明らかにされています。それは苦しみであり、精神的苦痛の克服は、一般的に自分の人生を矛盾しない行動、特に他の人々との矛

伝言

盾のない関係に向ける限り可能であるということです。

この本は社会的、個人的な精神性の芽生えおよび非常に幅広い心理学と人類学が扱われており、『イメージの心理学 (*Psicología de la imagen*)』および『心理学ノート (*Apuntes de psicología*)』から『普遍的な起源神話 (*Mitos raíces universales*)』に及びます。それはまた、『人間について (*Acerca de lo humano*)』、『今日の世界における宗教 (*La religiosidad en el mundo actual*)』、そして『神のテーマ (*El tema de Dios*)』といった講演でも扱われています。そこで『内観』の新しい展開と応用が行われます。

『シーロの伝言』に関連して言及している背景は明らかであり、特に第2部と第3部で、互いに混ざり合って重なり合っています。

第1部は、『内観』であり直接転写されています。

『誘導される体験 (*Las experiencias guiadas*)』や物語などの文学作品では、これらの転写が現われます。これらの翻訳には、物語や小説があり、あるいは『夢と行動 (*El ensueño y la acción*)』または『ボマルツォの森 (*El Bosque de Bormazo*)』には、初頭から先に述べた背景の中にすでに現れている心理学の強い内容を見ることができます。簡単な評論の締めくくりとして、『伝言』は、個人的な霊性の表現であると同時に社会的なもので

伝言

もあることを強調します。それは体験の真実を確証しており、時間が経つにつれて、様々な文化、国籍、社会的そして世代別の層に現れています。このような真実はその機能と展開のための教義や固定された組織形態を必要としません。そのため、伝道者、つまり『伝言』を感じ取り、他人へ伝える人々は、観念や信仰の自由についての強制を受け入れないようにし、自分が対応してほしいように、すべての人間に対応する必要性を常に強調しています。対人関係および社会的関係におけるこの自己評価は、伝道者があらゆる形態の差別、不平等、および不正義に逆らって働きかけるのと同様に行われます。

シーロ

筆者について

マリオ・ルイス・ロドリゲス・コボス (Mario Luis Rodríguez Cobos)、別名シーロ。1938年1月6日メンドサ (アルゼンチン) 生まれ。

作家および思想家として多くの著書を執筆する。思想運動である万人救済人文主義または新人文主義の創始者。人間世界の危機から抜け出すための唯一の代替手段として、非暴力の方法論を提案する。個人的および社会的発展を同時に提起する。

シーロの伝言では、自分の考えおよび束縛されない組織を自由に解釈することを勧める。

その主な提案の中には、肉体的苦痛と精神的苦痛の克服がある。

シーロは2010年9月16日、故郷メンドサの村、チャクラス・デ・コリアの自宅にて死去。

伝言

その他の著書は、こちら
をご覧ください。

www.silo.net

La Curación del Sufrimiento

En esta arena se destaca la necesidad de contar con una conducta simple que oriente la vida; y también se dice que la ciencia y la justicia son necesarias para vencer el dolor, pero la superación de los deseos primitivos es necesaria para vencer el sufrimiento mental.

La Mirada Interna

Trata sobre el sentido de la vida. El tópico principal sobre el que discurre es el estado psicológico de contradicción. Allí se aclara que el registro que se tiene de la contradicción es el sufrimiento y que la superación del sufrimiento mental es posible en la medida en que se oriente la propia vida hacia acciones no contradictorias en general y, en particular, hacia acciones no contradictorias en relación con otras personas.

Silo

Otras obras del autor:

<http://www.silo.net>